

投稿チェックリスト（原著論文用）

(2023.10.1 更新)

I. 投稿規定・執筆要領の遵守

1. 投稿内容

作業療法の学術的発展に寄与する内容か？

2. 倫理的事項について

倫理上の配慮（著作権や研究者の人権の尊重）は記載されているか？

3. 原著論文の種目と長さについて

原著論文という種目は内容と照らして適切か？（実践報告が妥当か？）

原著論文の長さは投稿規定に準じて適切か？

4. キーワード

キーワードは論文の内容に即しているか？

キーワードは最新キーワード集に則っているか？（日本作業療法士協会ホームページの「作業療法キーワード集」を参照して下さい。キーワード集にない用語には（ ）が必要）

5. 原著論文の体裁と文章表現

「はじめに」，「方法」，「結果」，「考察」などの適切な見出しがつけられているか？

文章は明快かつ簡潔に述べられているか？

本文と文献に連続したページ番号がつけられているか？

外国人の人名は原語で書かれているか？

学術用語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて（ ）内に原語を入れてあるか？（日本語化していればカタカナ表記）

キーワード集にない略語は文章初出時に正式名称が記載されているか？

6. 文献リスト

文献リストの表記は執筆要領に従っているか？（査読の段階でもチェックする）

引用文献は引用順に配列してあるか？

著者名は5名までを記載し、6名以上は“他”としているか？

7. 図表

図表はすべて表題がつけられ、図（写真）には説明があるか？

本文中に図表の挿入場所が示されているか？

表に必要な縦線は使われていないか？

図（写真）は白黒でも区別がつく鮮明なものになっているか？

II. 原著論文の内容

1. 標題と要旨

- 標題は論文の内容を適切に表現しているか？
- 要旨は論文の内容を簡潔に、かつ適切に表現しているか？

2. はじめに

- 先行研究を適切に引用しつつ、研究の背景が示されているか？
- 先行研究を適切に引用しつつ、現時点で未解明な点が示されているか？
- 論文の新規性（オリジナリティ）が明確に示されているか？
- 研究命題を含めた目的が明確に示されているか？

3. 対象と方法

- 研究デザインと目的の整合性はあるか？
- 研究目的と研究対象の整合性はあるか？
- 方法は追試可能なレベルに具体的に記載されているか？
- データの分析方法や分析者（特に質的研究）は具体的に示されているか？
- 統計処理の方法は適切か？
- 研究デザインは方法の早い段階で明記されているか？
- 適格基準，除外基準は明記されているか？
- 適切なサンプルサイズは事前に計算されているか？
- 研究の実施場所（セッティング）や実施期間は記載されているか？

4. 結果

- 結果は客観的で明確に示されているか？（主観が含まれていないか？）
- 対象の属性などは具体的に記載されているか？
- 研究の各段階において対象数は適切に表記されているか？（フローチャートに基づく欠損値は？）
- 図表にする内容，サイズは適切か？
- 統計結果の記載は適切か？（効果量，信頼区間，モデル適合度などを含む）
- 図表にある結果を本文内で再掲していないか？

5. 考察

- 目的で提示された研究命題と今回得られた結果に基づき考察されているか？
- 先行研究と比較しながら，論理的な考察がされているか？（自説に偏った内容になっていないか？）
- 潜在的なバイアスを考慮し，一般化可能性や限界について適切に考察されているか？
- 作業療法への示唆（implication）が示されているか？
- 結論は明快に記載されているか？（結果に考察を加えたもの）

投稿チェックリスト（実践報告用）

(2023.10.1 更新)

I. 投稿規定・執筆要領の遵守

1. 投稿内容

作業療法の学術的発展に寄与する内容か？

2. 倫理的事項について

倫理上の配慮（著作権や研究対象者の人権の尊重）は記載されているか？

事例は説明を受けた上で同意しているか？（必要に応じて記載）

3. 実践報告の種目と長さについて

実践報告という種目は内容と照らして適切か？（原著論文が妥当か？）

実践報告の長さは投稿規定に準じて適切か？

4. キーワード

キーワードは今回主張する作業療法実践（対象者の特徴も含む）が反映されたものになっているか？

キーワードは最新キーワード集に則っているか？（日本作業療法士協会ホームページの「作業療法キーワード集」を参照して下さい。キーワード集にない用語には（ ）が必要）

5. 実践報告の体裁と文章表現

「はじめに」、「対象」、「介入」、「経過」、「結果」、「考察」などの適切な見出しがつけられているか？

文章は明快かつ簡潔に述べられているか？

本文と文献に連続したページ番号がつけられているか？

外国人の人名は原語で書かれているか？

学術用語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて（ ）内に原語を入れてあるか？（日本語化していればカタカナ表記）

キーワード集にない略語は文章初出時に正式名称が記載されているか？

6. 文献リスト

文献リストの表記は執筆要領に従っているか？（査読の段階でもチェックする）

引用文献は引用順に配列してあるか？

著者名は5名までを記載し、6名以上は“他”としているか？

7. 図表

図表はすべて表題がつけられ、図（写真）には説明があるか？

本文中に図表の挿入場所が示されているか？

表に必要な縦線は使われていないか？

図（写真）は白黒でも区別がつく鮮明なものになっているか？

II. 実践報告の内容

1. 標題と要旨

- 標題は作業療法実践や診断に関する内容を適切に表現しているか？
- 事例報告の場合、事例報告であることが標題で示されているか？
- 要旨に、診断名や症状、臨床所見、特徴的な実践（介入や評価など）、結果が示されているか？

はじめに

- 先行研究を適切に引用しつつ、作業療法実践場面で未解明な点が示されているか？
- 事例報告の新規性（オリジナリティ）が明確に示されているか？
- 主張したい実践が明確に示されているか？

2. 対象者の情報

- 対象者が特定されないような表記になっているか？
- 対象者の希望、症状、障害、医学的情報、既往歴や現病歴、生活歴、家族情報、関連する過去の介入歴などの必要事項が記載されているか？または、必要ない事項が記載されていないか？

3. 評価や臨床推論

- 重要な評価が適切に実施されているか？（実施していない場合はその理由）
- 検査結果の適切な記載がされているか？
- 評価の臨床推論（リーズニング）が示されているか？

4. 治療的介入

- 治療・介入の基盤となる学術的根拠、理論がある場合、それは適切に示されているか？
- 治療・介入の名称、適用した理由や方法、提供者、場所、量や頻度に関する情報が記載してあるか？
- 治療・介入の手順は明快で、再現するのに十分な情報が明記されているか？
- 治療・介入に修正変更があった場合、その情報が示されているか？

5. 経過と結果

- 経過や結果が、時系列で明快に記載されているか？
- 医学的結果のみでなく、活動や参加の変化や対象者の見解（主観的側面）なども考慮されているか？
- 介入のアドヒアランスや有害事象に関する情報は記載されているか？

6. 考察

- 「はじめに」で述べた目的や今回得られた結果に基づき考察されているか？
- 先行研究と比較しながら、論理的な考察がされているか？（自説に偏った内容になっていないか？）
- 作業療法への示唆（implication）が示されているか？
- 結論は明快に記載されているか？（結果に考察を加えたもの）